

### Ⅲ. 個人生活について

#### 1. 住居

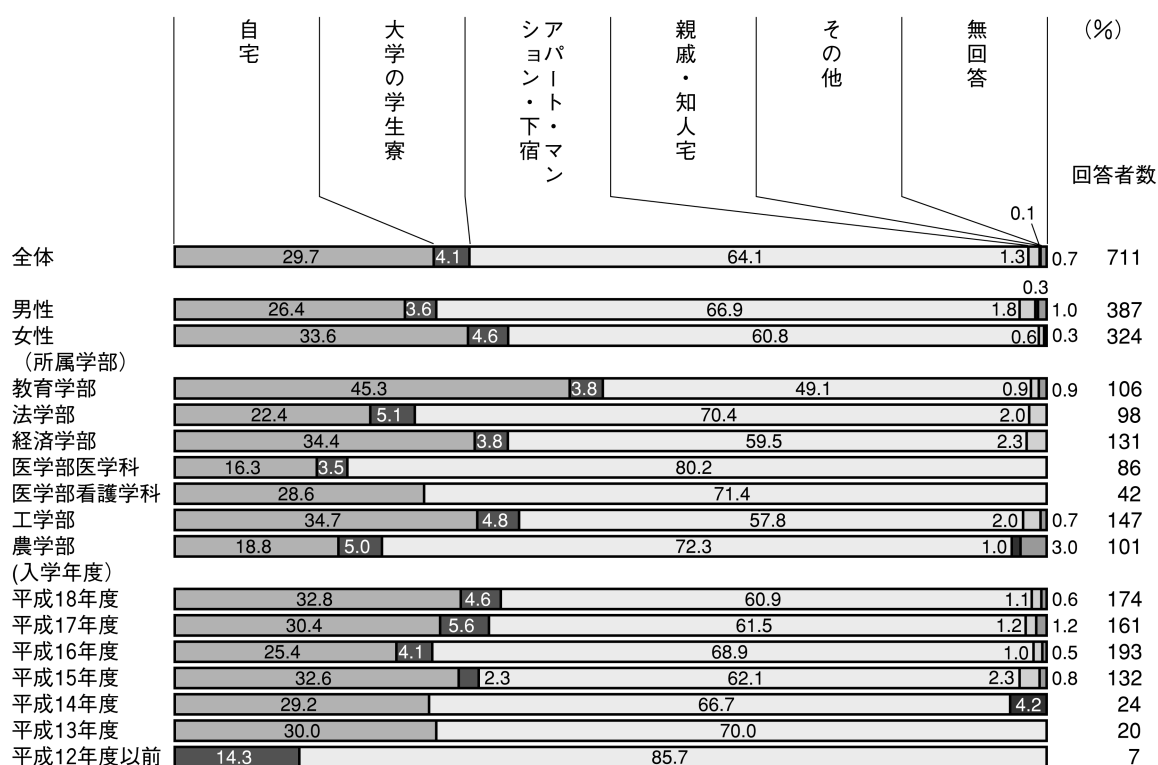
##### (1) 住居の形態

下宿が64.1%、自宅が29.7%、寮が4.1%です。

住居の形態では、「アパート・マンション・下宿」が全体の64.1%と最も多く、次いで、「自宅」が29.7%、「学生寮」が4.1%の順になっています。

男女別では、「アパート・マンション・下宿」が男性で66.9%、女性で60.8%を占めており、男性の方が、下宿率がやや高くなっています。また、学生寮に入る率は、少し上昇しています。学部別では、医学部医学科の下宿率が80.2%で、他の学部比べて高くなっています。

〈図 77〉 問 53 あなたが現在住んでいるのは次のうちどれですか。



(2) 入寮の検討

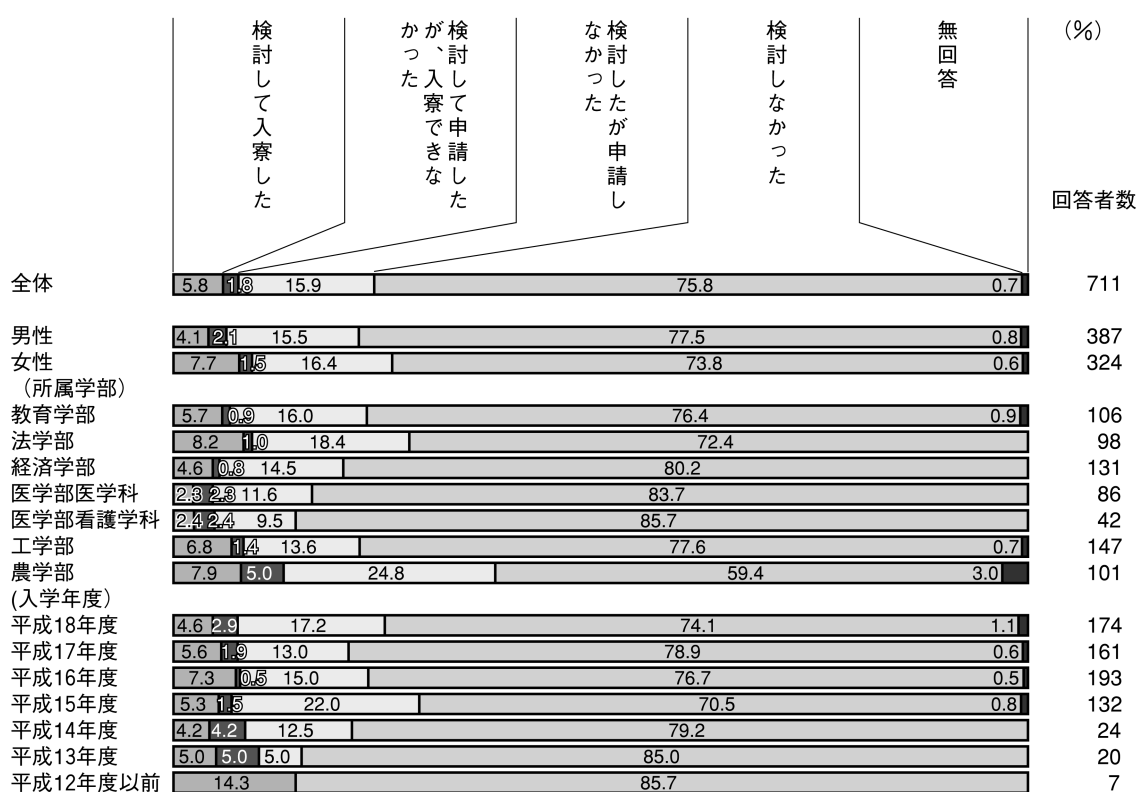
学生寮への入寮を検討したのは、23.5%で、実際に入寮したのは5.8%です。

入学時に学生寮への入寮を検討したのは、全体で23.5%ありましたが、実際に入寮したのは5.8%です。また、全く検討しなかったのは、75.8%です。

これは、2年前の調査と比較して、実際の入寮率が低下し、検討しなかった率は、高くなっています。

学部別では、医学部は、他の学部比べて入寮率は低い結果となっています。

〈図 78〉 問 54 入学時、本学の学生寮に入ることを検討しましたか。



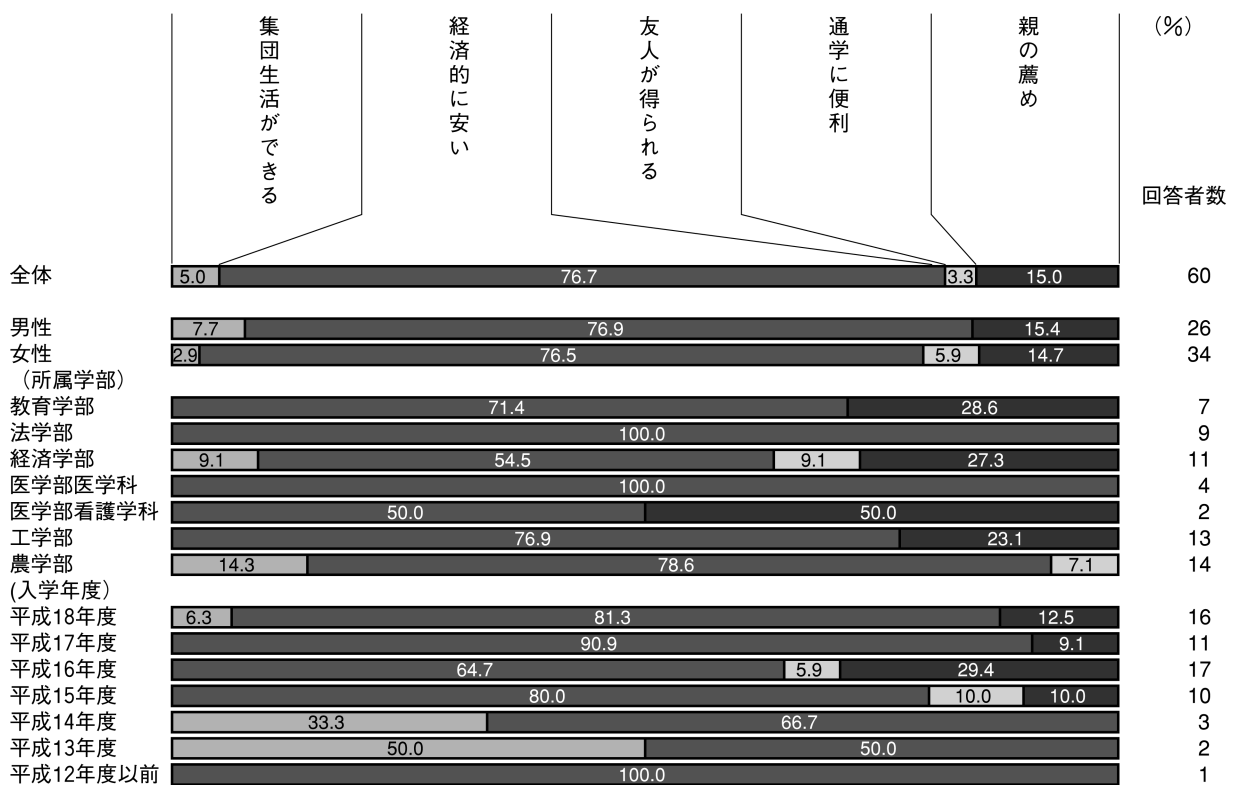
(3) 学生寮を選んだ理由（無回答を除く）

入寮の理由は、「経済的に安い」が全体の76.7%で圧倒的です。

入寮する理由の第1位は、2年前の調査と同様で、「経済的に安い」が全体で76.7%、次いで、「親の勧め」（15.0%）です。

男女別では、両者共に、第1位は「経済的に安い」、第2位に、「親の勧め」を挙げています。

〈図79〉 問55 問-54で「1」又は「2」と回答した人におたずねします。学生寮を選んだのは、次のどの理由からでしょうか。一つ選んで教えてください。



(4) 学生寮を選ばなかった理由（無回答を除く）

入寮しない理由としては、「プライバシーが保たれにくい」、「通学に不便」、「部屋が共同」を挙げています。

入寮しない理由については、全体では、「プライバシーが保たれにくい」（19.5%）、「通学に不便」（16.6%）、「部屋が共同」（15.8%）が、上位3位を占めています。

男女別では、男性の1位は、「通学に不便」（23.7%）、2位は「プライバシーが保たれにくい」（18.4%）、女性の1位は「部屋が共同」（23.5%）、2位は「プライバシーが保たれにくい」（20.9%）を挙げています。

また、その他の回答のうち、学生寮を選ばなかった理由としては、最も多かったのが、自宅生で大学に通える距離と答えており、少数ながら一人暮らしをしてみたかったや、寮があることを知らなかったと答えています。

〈図 80〉 問 56 問-54 で「3」又は「4」と回答した人におたずねします。学生寮を選ばなかったのは、次のどの理由からでしょうか。一つ選んで教えてください。



## 2. 健康

### (1) 現在の健康状態

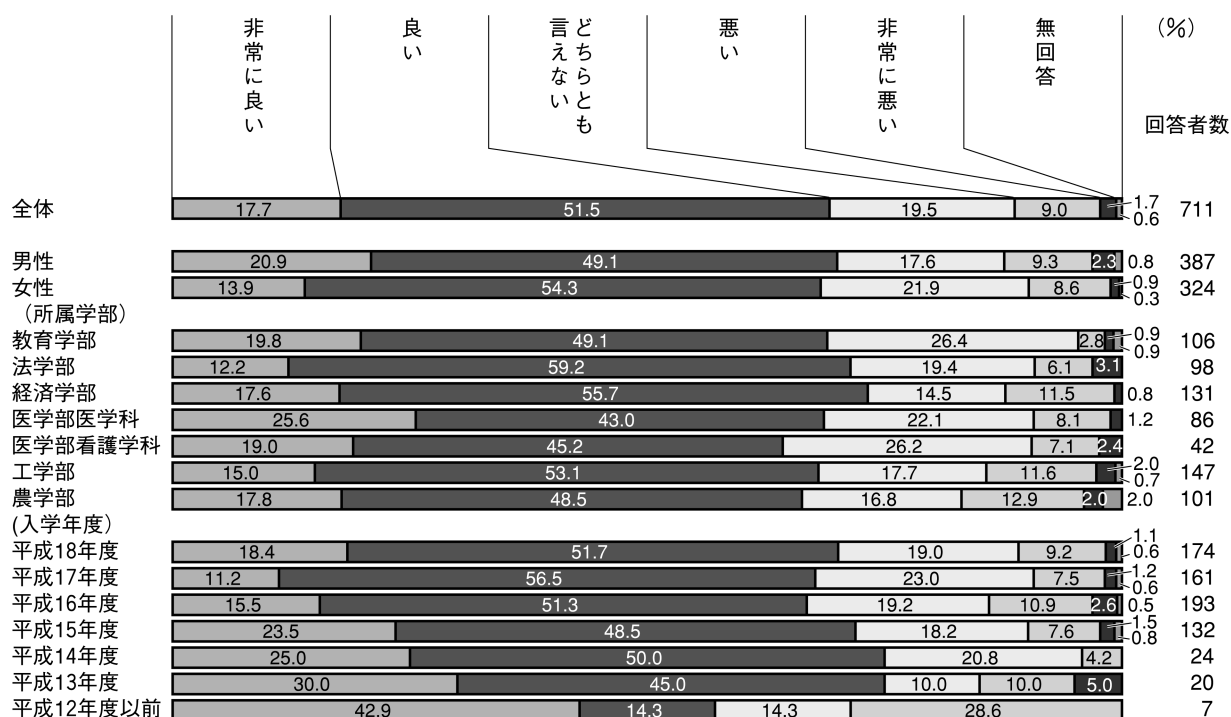
全体の約9割の学生が、自分の健康状態は「良い」あるいは「普通」と思っています。

現在の健康状態について尋ねました。「健康状態が非常に良い」と答えた学生は全体の17.7%、「健康状態が良い」と答えた学生は51.5%、「どちらとも言えない」と答えた学生は19.5%で、これらを合わせると、88.7%となります。それに対して、「健康状態が悪い」と答えた学生は9.0%、「非常に悪い」と答えた学生は1.7%でした。これらの結果から、全体の約9割の学生が自分の健康状態を「良い」あるいは「普通」と考えており、残り約1割の学生は、自分の健康状態を「悪い」と考えていることが分かります。これは、前回までの調査結果とほぼ同様です。

この傾向は、男女別・学部別で見ても、それほど大きな違いは見られません。

入学年度別に見ると、平成12年度以前入学の学生では、自分の健康状態を「悪い」と答えた学生が、28.6%と多くなっています。この結果の解釈に当たっては、このグループの回答者数が極端に少ない(7人)ことによるデータの偏りを考慮せねばなりません。他方では、過年度生(留年生)の健康状態により注意を要するという可能性も考えられます。

〈図81〉 問57 現在の健康状態はいかがですか。



(2) 保健管理センターの利用について

半数以上の学生が、健康診断以外でも、保健管理センターを利用しています。

定期健康診断以外でも保健管理センターを「利用したことがある」と答えた学生は57.1%（割合は総人数比）で、前々回調査（40.5%）、前回調査（51.0%）に引き続いて、増加傾向を示しました。なお、「利用したことがある」と答えた学生に対しては、2つまでの複数回答を求めていますので、図中、各項目の割合の合計は、100%にはなりません。

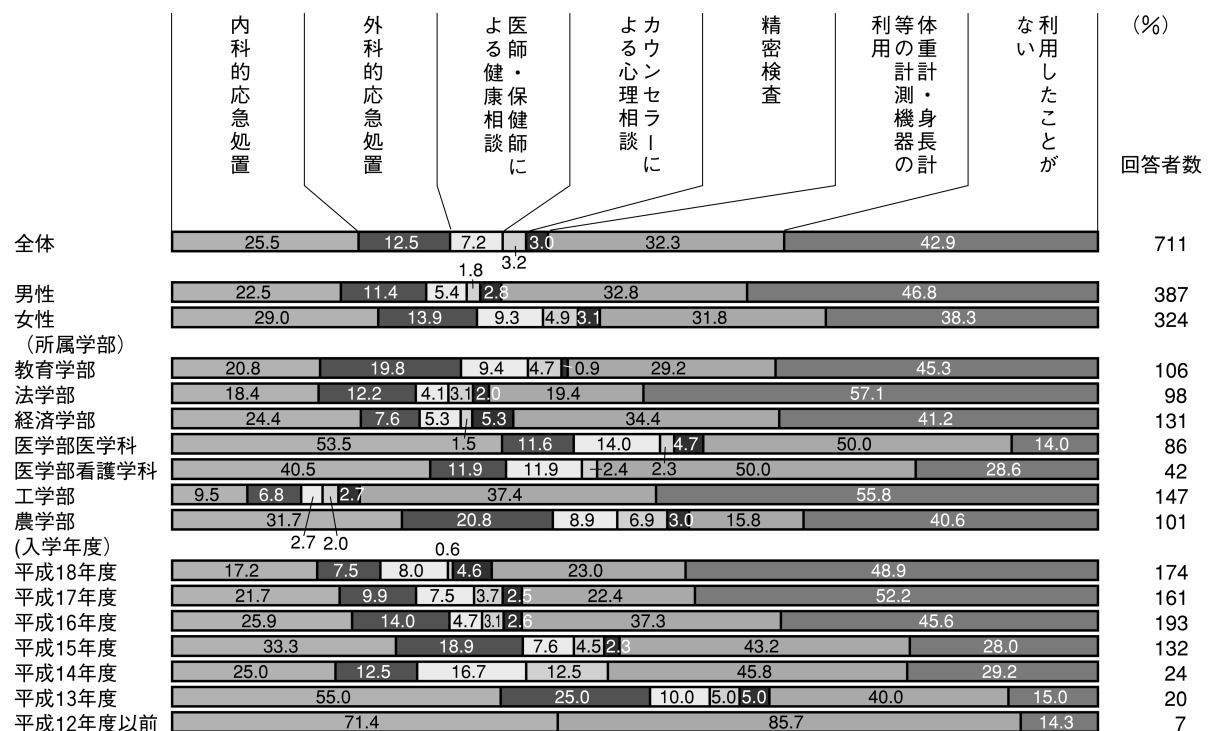
利用内容を見ると、「計測機器の利用」が32.3%と最も多く、次いで、「内科的応急処置」が25.5%、「外科的応急処置」が12.5%、「医師・保健師による健康相談」が7.2%、「カウンセラーによる心理相談」が3.2%、「精密検査」が3.0%と続いています。前回調査と比較すると、「計測機器の利用」の増加（前回27.6%）、「医師・保健師による健康相談」の増加（前回5.3%）、「カウンセラーによる心理相談」の増加（前回1.9%）が見られます。

男女別に見ると、「計測機器の利用」を除き、全ての項目にわたって、女性の利用率が高くなっています。

学部別に見ると、教育学部では、「外科的応急処置」、「カウンセラーによる心理相談」の利用が比較的多いこと、法学部と工学部では、「利用したことがない」と答えた学生が比較的多いこと、医学部では、「内科的応急処置」、「計測機器の利用」が多いこと、また、農学部では、「内科的応急処置」、「外科的応急処置」、「カウンセラーによる心理相談」の利用が比較的多いことなどが、特徴的です。

入学年度別に見ると、学年が上がるにつれて、保健管理センターを「利用したことがある」と答えた学生が増加していることが分かります。

〈図 82〉 問 58 あなたは定期健康診断以外に保健管理センターを利用したことがありますか。次のうちから二つまで選んで答えてください。



(3) 身体の具合が悪くなったときの対処方法

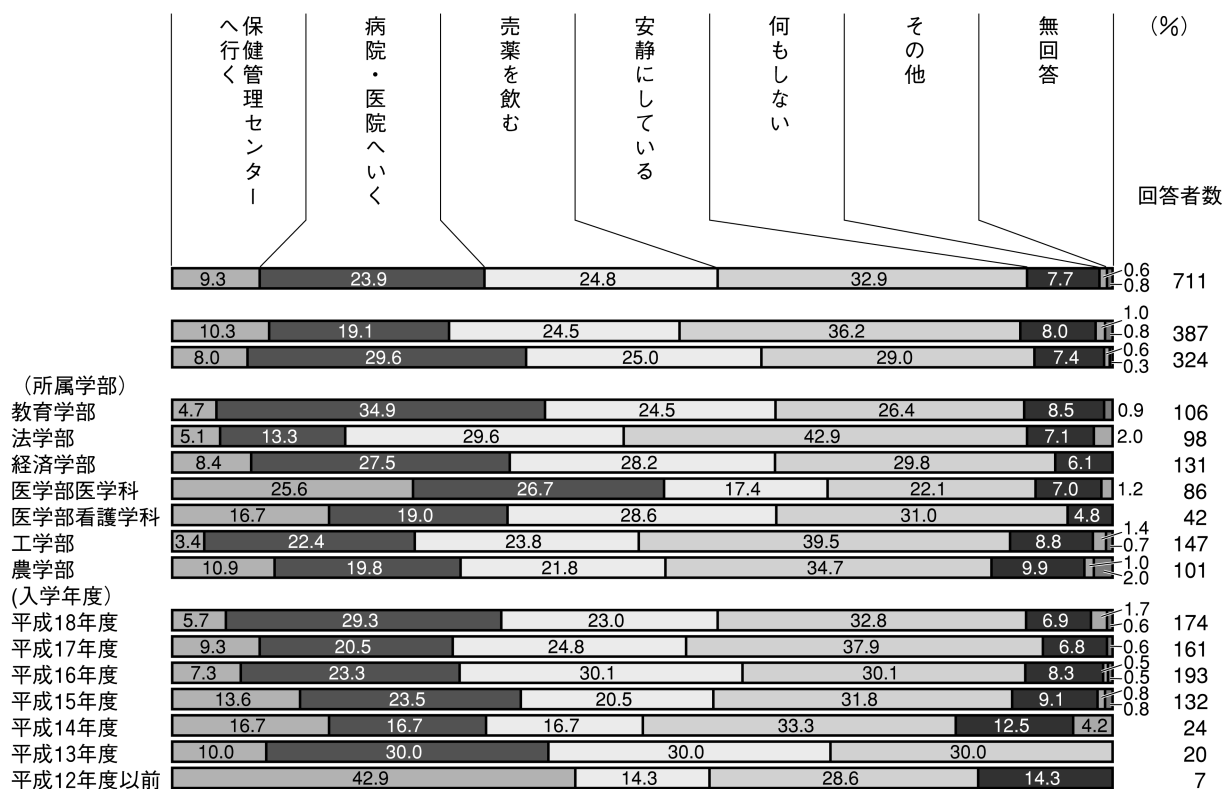
身体の具合が悪くなったとき、学生は主に、「安静にする」「売薬を飲む」「病院に行く」といった方法で対処しています。

身体の具合が悪くなったときの対処方法について尋ねました。その結果、「安静にしている」が32.9%で最も多く、次に、「売薬を飲む」が24.8%、「病院・医院へ行く」が23.9%と続いています。「保健管理センターへ行く」のは9.3%、特に「何もしない」と答えた人も7.7%いました。これは、前回調査とほぼ同じ結果です。

学部別に見ると、教育学部では、「病院・医院へ行く」と答えた学生が多く、法学部では、「安静にしている」と答えた学生が多いこと、医学部では、「保健管理センターへ行く」と答えた学生が比較的多く、工学部では、それが逆に低くなっていることなどが、特徴的です。

〈図 83〉 問 59 身体の具合が悪くなったとき、通常どのように対処していますか。

次のうちから一つ選んで答えてください。



(4) 飲酒について

飲酒については、月に数回もしくは年に数回といった頻度で嗜む程度の学生が、全体の約7割を占めています。

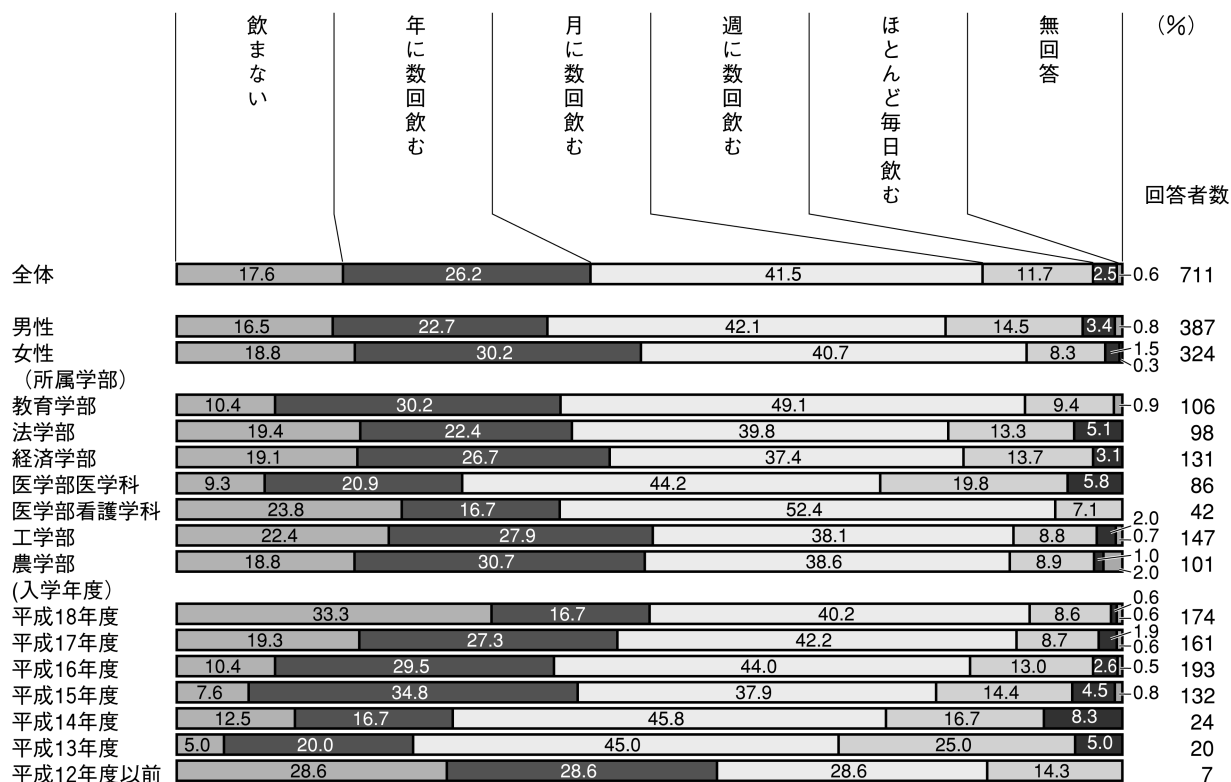
学生の飲酒状況について尋ねました。全体で見ると、「月に数回飲む」と答えた学生が41.5%と最も多く、次いで、「年に数回飲む」という学生が26.2%でした。約7割の学生は、付き合い程度にお酒を飲んでいると言えそうです。また、「飲まない」と答えた学生は17.6%で、これは、前回調査(12.3%)よりも増えています。

男女別に見ると、男性の方が頻繁にお酒を飲む学生がやや多いようです。また、「飲まない」と答えた女性は18.8%と、前回(9.5%)よりも増加しています。

学部別に見ると、医学部医学科では、「ほとんど毎日飲む」が5.8%、「週に数回飲む」が19.8%、法学部では、「ほとんど毎日飲む」が5.1%と、頻繁に飲酒している学生が他学部よりもやや多いようです。

なお、入学年度別に見ると、入学後、学年が上がるにつれて、飲酒の頻度も少しずつ増加する傾向が伺えます。

〈図84〉 問60 お酒を飲みますか。





(5) 喫煙について

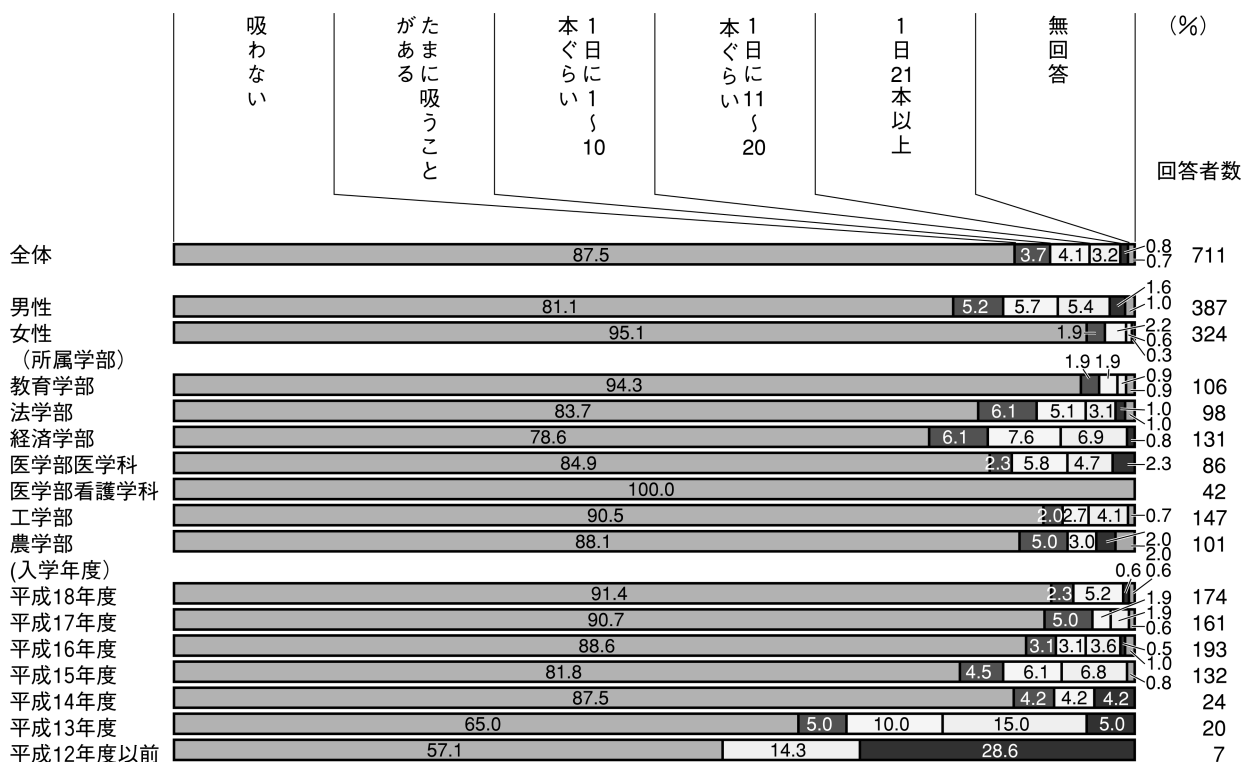
タバコを吸う学生は年々減り、逆に吸わない学生が全体の9割に達しようとしています。

「たまに吸うことがある」から「1日に21本以上」という人まで含めた喫煙者の割合の推移を、調査年度ごとに追ってみると、第1回（昭和60年度）30.5%、第2回（平成元年度）32.3%、第3回（平成4年度）27.6%、第4回（平成6年度）29.6%、第5回（平成8年度）23.5%、第6回（平成10年度）22.8%、第7回（平成12年度）21.5%、第8回（平成14年度）21.2%、第9回（平成16年度）12.9%、そして今回（平成18年度）11.8%と、年々減少傾向にあります。社会的な喫煙対策の流れに加えて、保健管理センターによる健康教育や受動喫煙防止などの啓発活動の効果も、その背景にあるものと思われます。

男女別で見ると、やはり男性の喫煙率が高い（17.9%）ものの、前回調査（19.9%）に比べれば、減少傾向にあります。女性の喫煙率も4.7%で、これも、前回調査（5.5%）から減少傾向にあります。

学部別で見ると、医学部看護学科では、非喫煙者が100%となっています。前回調査で指摘された工学部における喫煙率の高さ（21.4%）も、今回調査では、8.8%と大幅に減少しました。教育学部の喫煙率も、前回6.5%から今回4.7%と減少しています。これらのことから、医学部看護学科、工学部、教育学部では、喫煙対策が順調に進んでいることが伺えます。逆に、前回よりも喫煙率が高くなっているのは、法学部（前回9%→今回15.3%）と経済学部（前回12.8%→今回21.4%）です。今後も、更なる啓発活動が望まれるところです。

〈図85〉 問61 たばこを吸いますか。



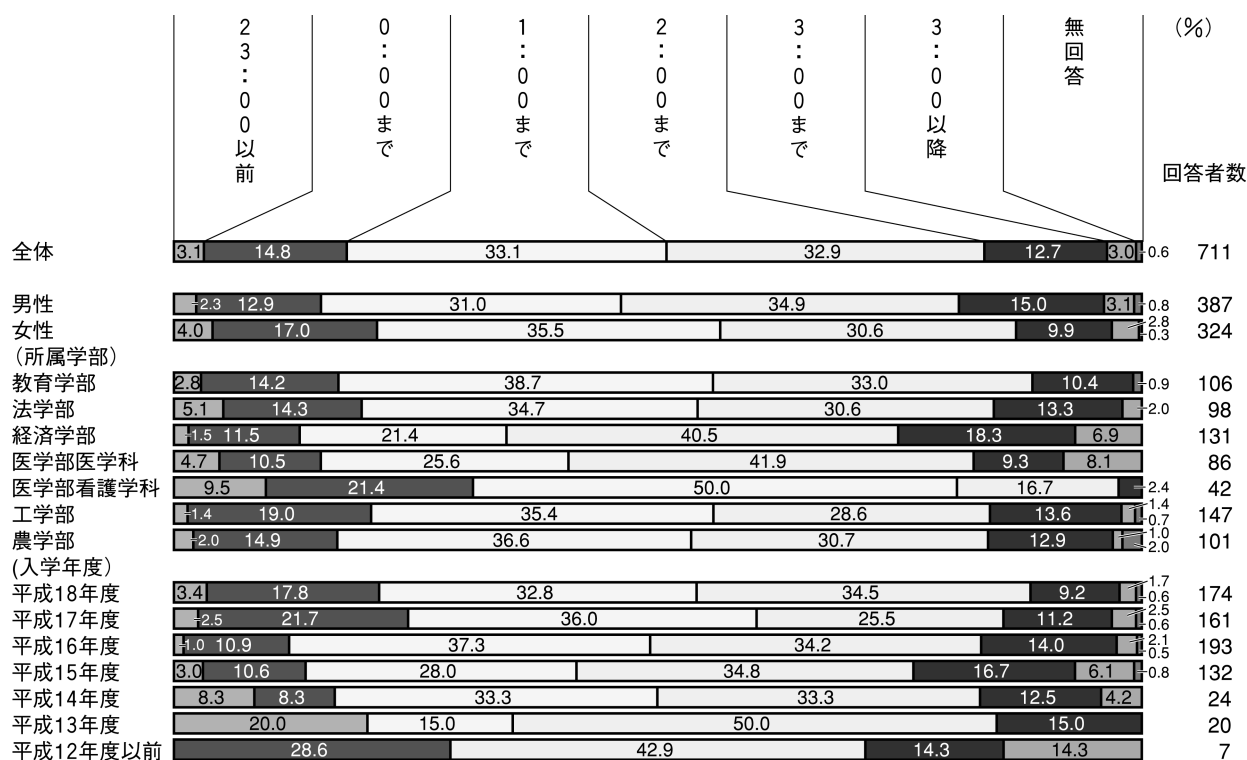
(6) 平日の就寝時刻について

学生の生活時間帯の夜型化は、依然として続いています。

平日の就寝時刻について、午前零時までに就寝する学生は17.9%と、前回調査(14.8%)から少し増加して、前々回(17.5%)と同じ水準に戻りましたが、深夜(午前1時過ぎ)まで起きている学生は48.6%と、依然として半数近くに達しています。

学生の生活時間帯の夜型化は依然として続いており、男女別に見れば男子学生の方が、学部別に見れば経済学部と医学部医学科が、また、入学年度で見れば、学年が上がるにつれて、その傾向はより顕著になっていると言えるでしょう。

〈図 86〉 問 62 平日の就寝時間は何時ですか。



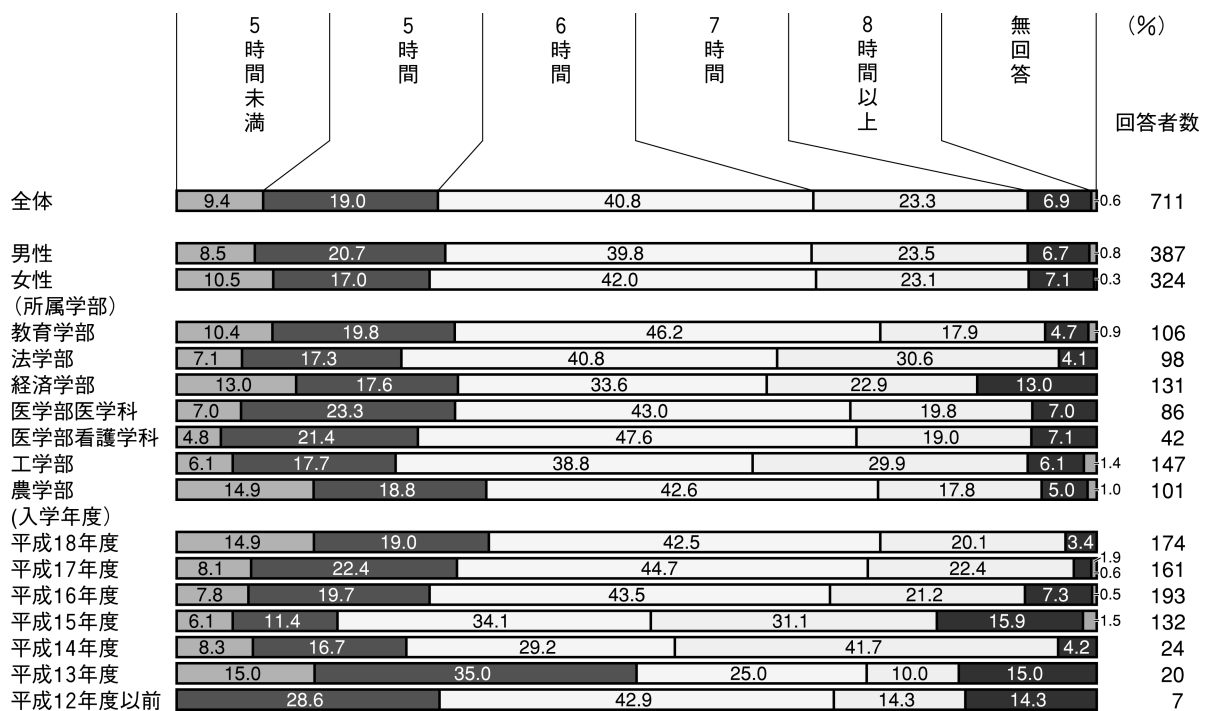
(7) 1日の睡眠時間について

7割以上の学生が「6時間以上」の睡眠時間を取っていますが、睡眠時間が「5時間以下」となっている学生も3割近くいます。

1日の睡眠時間について、6時間以上の睡眠を取っている学生は71%で、「5時間」、「5時間未満」と答えた学生は、合わせて28.4%となっています。この傾向は、男女別で見てもあまり変わりはありません。

入学年度別に見ると、学年が上がるに従って、睡眠時間を長く取る学生が増加しますが、5年次、6年次になると、また睡眠時間の短い学生が増えています。

〈図 87〉 問 63 あなたの1日の睡眠時間はおよそ何時間ですか。



(8) 1日の食事の回数について

1日3食を食べている学生は66.9%、1日2食の学生は29.3%となっています。

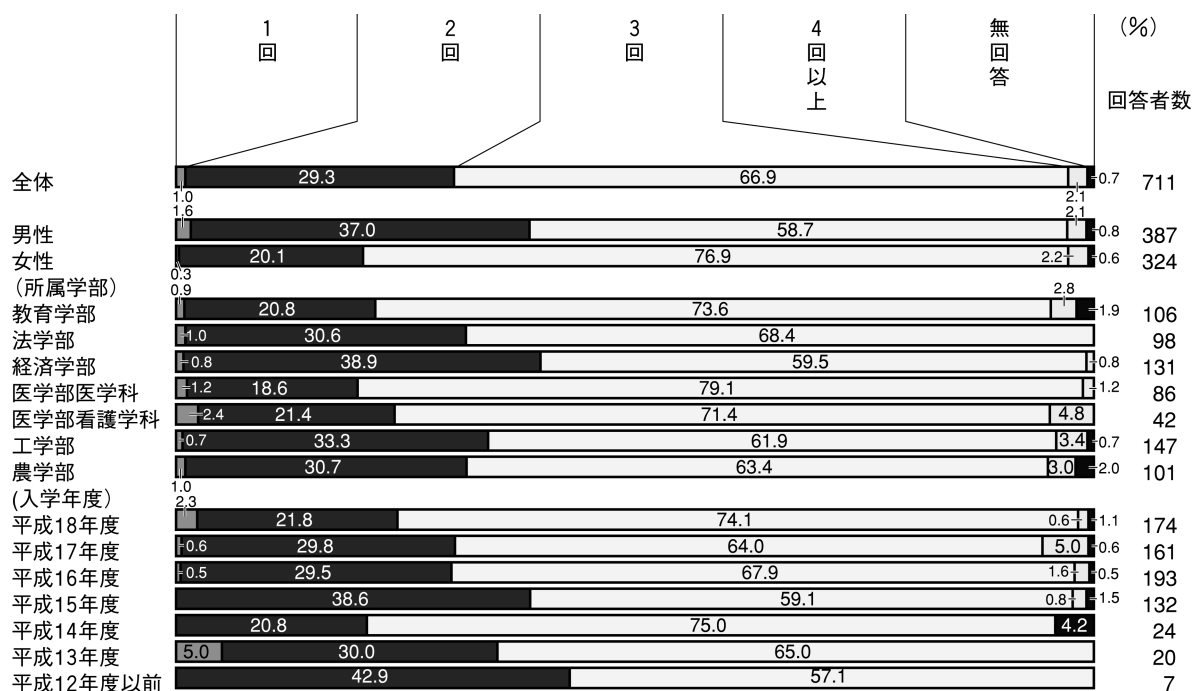
1日の食事の回数について、「3回」と答えた学生が66.9%で、若干の改善が報告された前回調査(67.9%)とほぼ同様の結果になりました。また、「2回」と答えた学生は29.3%で、これも、前回調査(28.0%)とほぼ同様の結果となりました。

男女別に見ると、男性において、1日2食で済ませてしまう学生が多い(37.0%)のは変わらないようです。

学部別に見ると、経済学部では、1日2食で済ませてしまう学生が多くなっています(38.9%)。

入学年度別に見ると、学年が上がるにつれて、1日2食の傾向が強くなるようです。

〈図88〉 問64 あなたの1日の食事は何回ですか。



(9) 精神的ストレス

4割以上の学生が、日常生活でかなりの精神的ストレスを感じています。

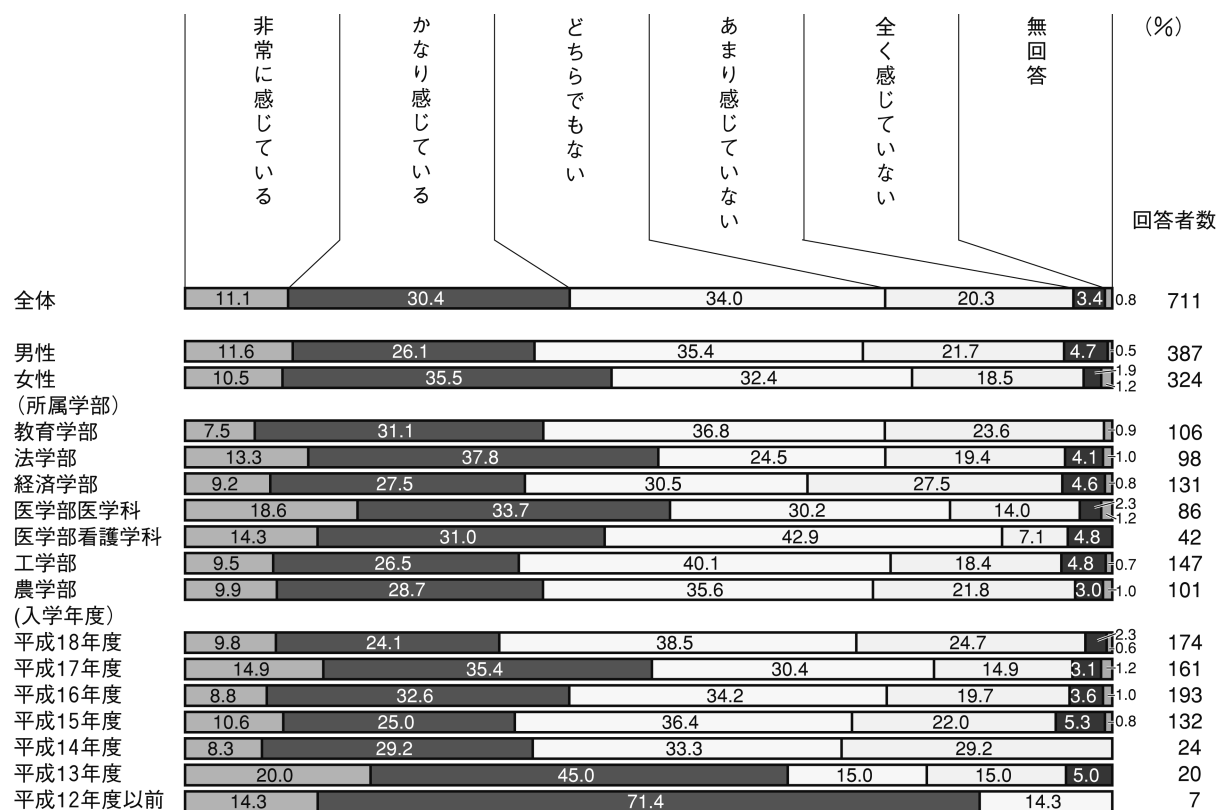
学生が、日常生活でどの程度精神的ストレスを感じているかを調べました。その結果、「どちらでもない」が34.0%で最も多く、次いで、「かなり感じている」が30.4%、「あまり感じていない」が20.3%、「非常に感じている」が11.1%でした。このうち、「非常に感じている」と「かなり感じている」を合わせると41.5%となり、4割以上の学生が、日常生活においてかなりの精神的ストレスを感じていることが分かります。

男女別で見ると、精神的ストレスを感じている学生は、女性の方がやや多いようです。

学部別で見ると、法学部と医学部医学科、医学部看護学科において、精神的ストレスを感じている学生の割合が少し高いようです。

入学年度別に見ると、2年次と6年次以上の学生において、精神的ストレスを感じている人の割合が高くなっているのが気に掛かります。

〈図 89〉 問 65 あなたは日常生活でどの程度精神的なストレスを感じていますか。



(10) ストレスの原因

学生のストレスの3大原因は、「学業」と「進路・就職」そして「友人関係」です。

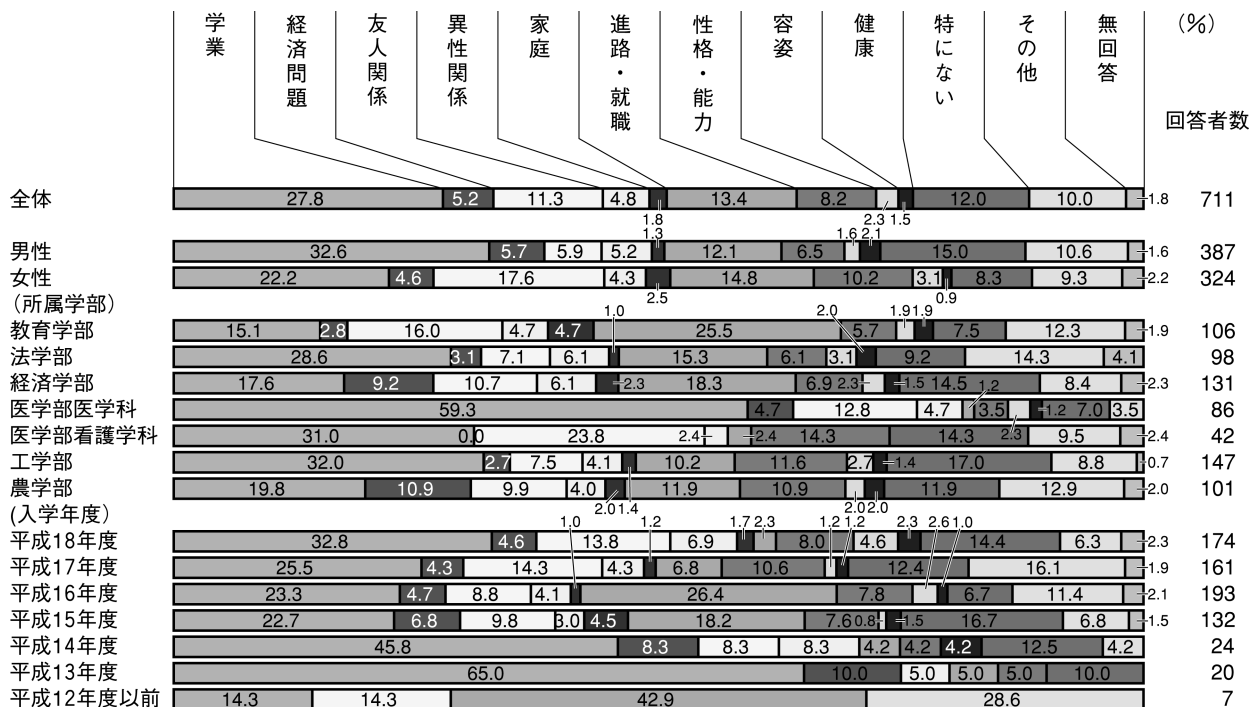
ストレスの原因について調べました。依然として、現代学生の3大ストレスは、「学業」(27.8%)「進路・就職」(13.4%)「友人関係」(11.3%)と言えますが、前回と比べて「学業」の割合が若干増加し(前回24.2%)、「進路・就職」(前回16.0%)と「友人関係」(前回13.7%)が若干減少しています。

男性における上位3位は、「学業」が32.6%とダントツのトップで、以下、「進路・就職」12.1%、「性格・能力」6.5%の順となりました。男性における「学業」、「進路・就職」のストレスの高さは前回と変わりませんが、「友人関係」のストレスが、前回よりも減少しています(前回9.1%→今回5.9%)。また、女性は、「学業」22.2%、「友人関係」17.6%、「進路・就職」14.8%が上位3位で、さらに、「性格・能力」10.2%へと続く結果となりました。前回調査では、「進路・就職」20.1%、「友人関係」18.7%、「学業」15.8%が上位3位だったので、今回は、1位と3位が入れ替わっていることが分かります。

学部別に見ると、教育学部と経済学部では、「進路・就職」が最も高く(教育=25.5%、経済18.3%)、法学部・医学部・工学部・農学部では、「学業」が最も高くなっていました。(法=28.6%、医医=59.3%、医看=31.0%、工=32.0%、農=19.3%)。

さらに、入学年度別に見ると、1～2年次の学生では、「学業」、「友人関係」のストレスが大きいものに対して、3～4年次の学生になると、「進路・就職」のストレスが急激に増加しています。これは、学生生活サイクルの変化を如実に反映した結果であると言えるでしょう。

〈図90〉 問66 あなたにストレスをもたらしている主なものはどんなことですか。  
次のうちから一つ選んで教えてください。



(11) 悩みの対処方法

問題に直面した時、多くの学生は、「友人・先輩に相談する」「親・兄弟に相談する」「成り行きにまかせる」といった方法で対処しています。

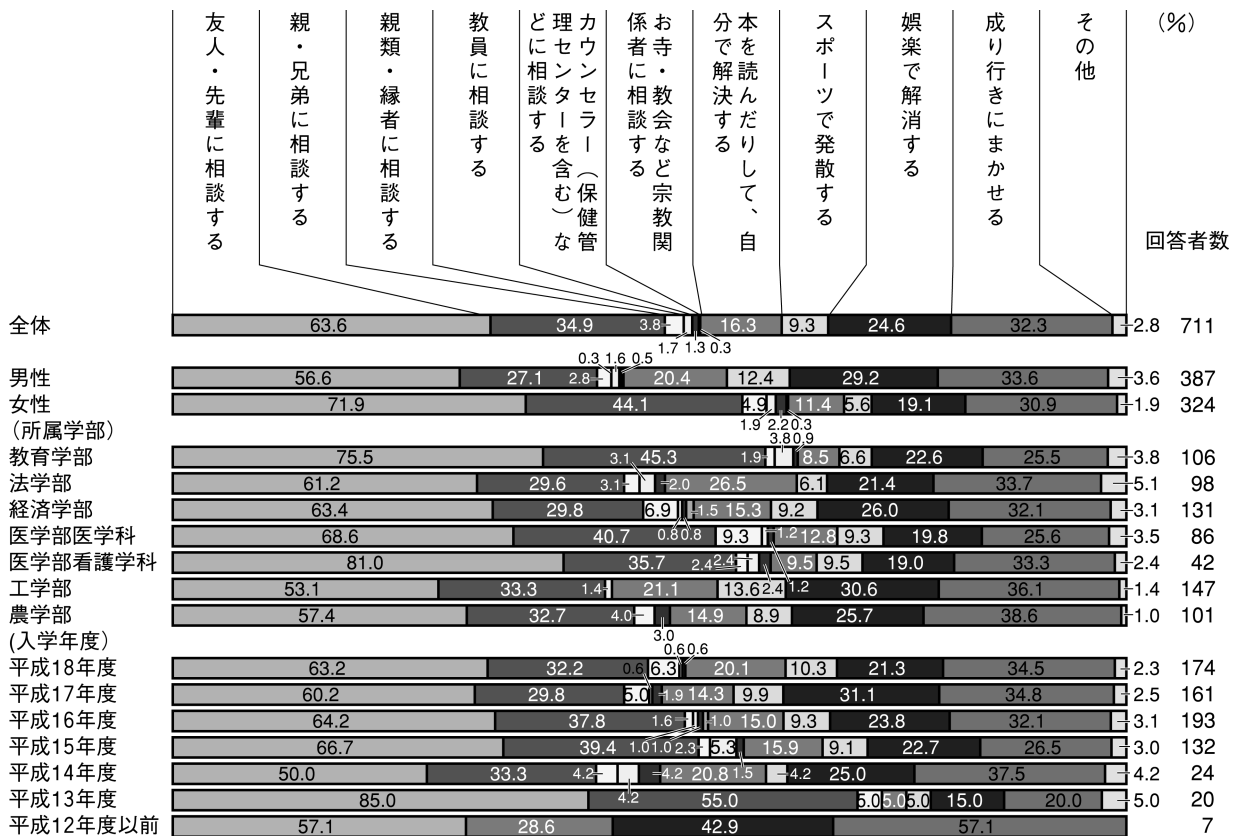
問題に直面した時の対処方法を、2つまで選択してもらいました（複数回答のため、図中、各項目の合計は100%になりません。）（割合は総人数比）。

その結果、対処方法として、「友人・先輩に相談する」を選んだ学生が63.6%と最も多く、次いで、「親・兄弟に相談する」34.9%、「成り行きにまかせる」の32.3%、「娯楽で解消する」24.6%、「本を読んだりして自分で解決する」16.3%と続いています。前回調査と比較すると、前回25.3%で4位だった「親・兄弟に相談する」が増加して、今回は2位に入っています。

男女別で見ると、女性では、71.9%が「友人・先輩に相談」し、44.1%が「親・兄弟に相談する」など、誰かに直接相談することで対処しようとしています。それに対して男性では、「友人・先輩に相談」するのは56.6%、「親・兄弟に相談」するのは27.1%に留まり、代わって、「成り行きにまかせる」33.6%、「娯楽で解消する」29.2%、「本を読んだりして自分で解決する」12.4%など、他のことで気を紛らわせたり、自分で解決すると答えた学生が、比較的多く見られました。

〈図91〉 問67 あなたは問題に直面したとき、どのように対処しますか。

次のうちから二つまで選んで答えてください。



(12) 学内の友人関係

9割近くの学生が、学内に「親密に付き合える友人がいる」と答えています。

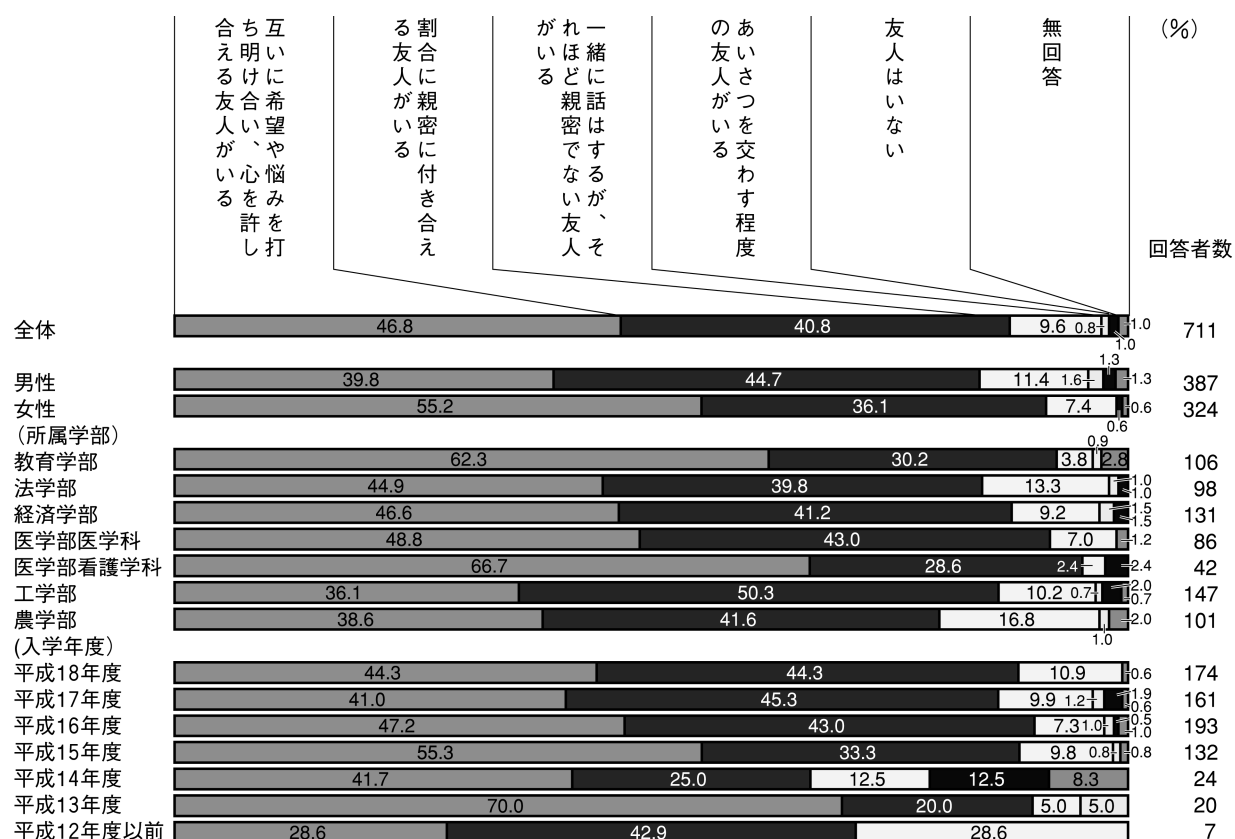
学内における友人関係について、「心を許し合える友人がいる」と答えた学生が46.8%、「割合に親密に付き合える友人がいる」と答えた学生が40.8%で、これらを合わせると、87.6%となりました。これは、前回調査とほぼ同様の結果です。この結果から見る限り、少なくとも学生の主観では、学内の友人関係は概ね良好であると言えます。

男女別に見ると、男性よりも女性の方が、「心を許し合える友人がいる」と答える割合が高くなっており（男性39.8%、女性55.2%）、これも、前回と同様の結果です。

学部別に見ると、教育学部と医学部看護学科において、「心を許し合える友人がいる」と答えた学生の割合が高いようです。

入学年度別で見ると、学年が上がるにつれて、「心を許し合える友人がいる」の割合が増加していますが、平成14年度・平成12年度以前に入学した学生では、その割合が低くなっているのが気になります。

〈図 92〉 問 68 あなたは本学内にどの程度付き合える友人がいますか。（同性異性を問いません。）





### 3. アルバイト

#### (1) 過去1年間のアルバイト経験

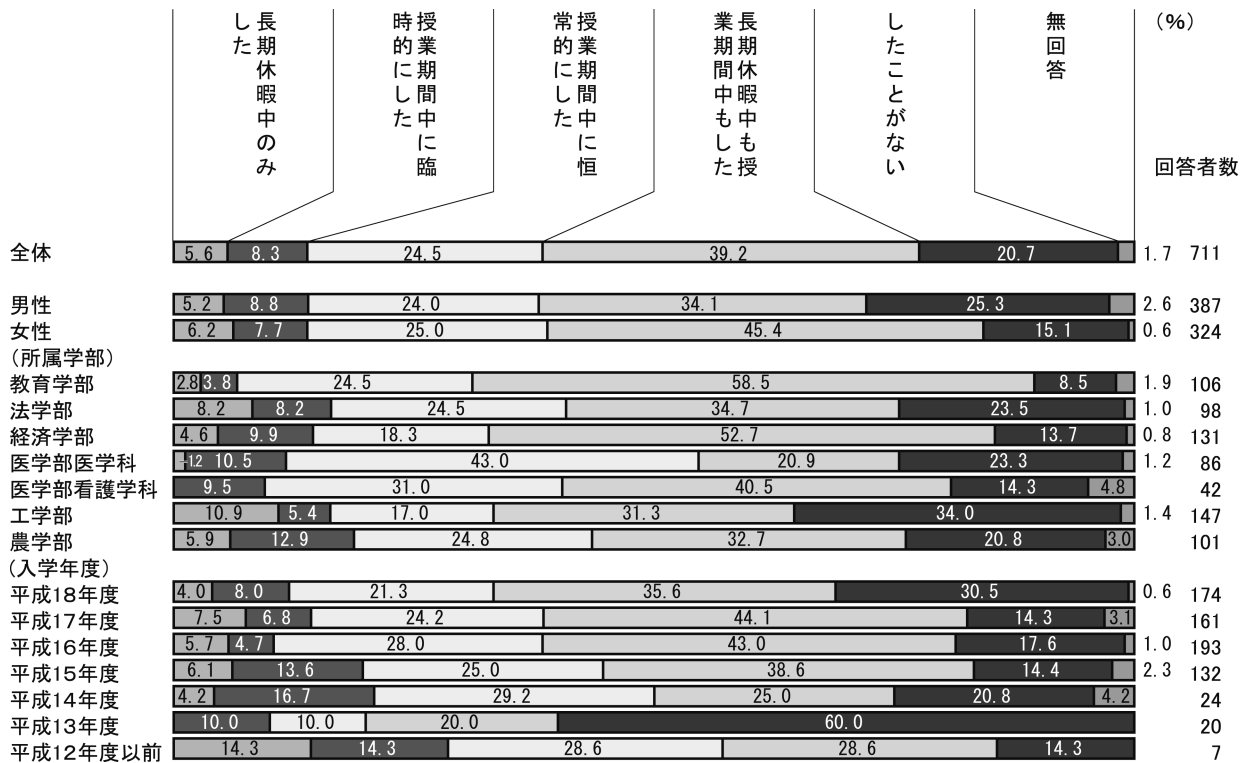
何らかの形で、約8割弱の学生がアルバイトを経験しています。しかし、「アルバイト経験がない」学生も2割を超えており、増加傾向にあるようです。

全体の結果では、何らかの形でアルバイトを経験している学生が、77.6%を占めています。また、授業期間中、長期休暇中に関係なく、恒常的にアルバイトを行っている者が、その大半を占めます。

しかし、「アルバイト経験がない」と答えた学生が20.7%と、前回調査に比べて4ポイントほど増加しました。特に、男性は、25.3%が過去1年にアルバイトを行っておらず、比較的高い割合を示しています（女性は15.1%）。学部別に見ると、工学部学生のアルバイト未経験率が、34%と高くなっています。

また、入学年度別に見ると、これまでの傾向と同様に、入学初年度の学生は、あまりアルバイトを行っていないようです。また、入学初年度者のアルバイト未経験率も、前回25.2%から、今回30.5%へ増加しています。

〈図93〉 問69 あなたは最近1年間にアルバイトをしましたか。



(2) アルバイトの主な職種

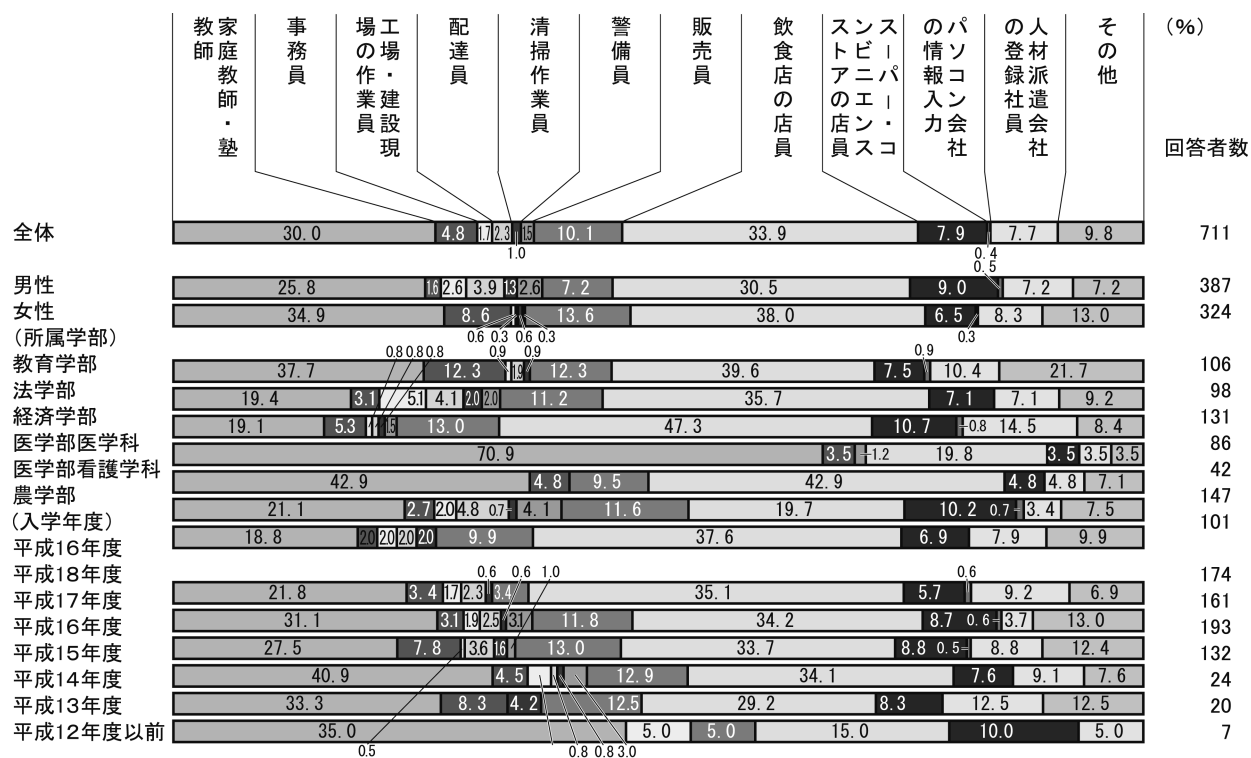
「飲食店の店員」が第1位、「家庭教師・塾教師」が2位となっています。

全体の結果では、「飲食店の店員」が33.9%で第1位であり、続いて、「家庭教師・塾教師」が30%で、第2位となっています。この結果は、前回調査と変化がありません。

学部別では、医学部において、「家庭教師・塾教師」の割合が高く、特に、医学部医学科生は、70.9%と圧倒的な割合を占めています。他の学部における「家庭教師・塾教師」の比率は、教育学部がやや高く37.7%である以外は、ほぼ2割程度となっています。

入学年度別に見ると、「飲食店の店員」の割合は、入学年度ごとにほぼ差がないのに対し、「家庭教師・塾教師」の割合は、学年が進むにつれて高まる傾向があるようです。特に、4年次生の割合が高くなっています。

〈図 94〉 問 70 あなたが主に従事する又は従事したアルバイトを、次のうちから二つまで選んで教えてください。



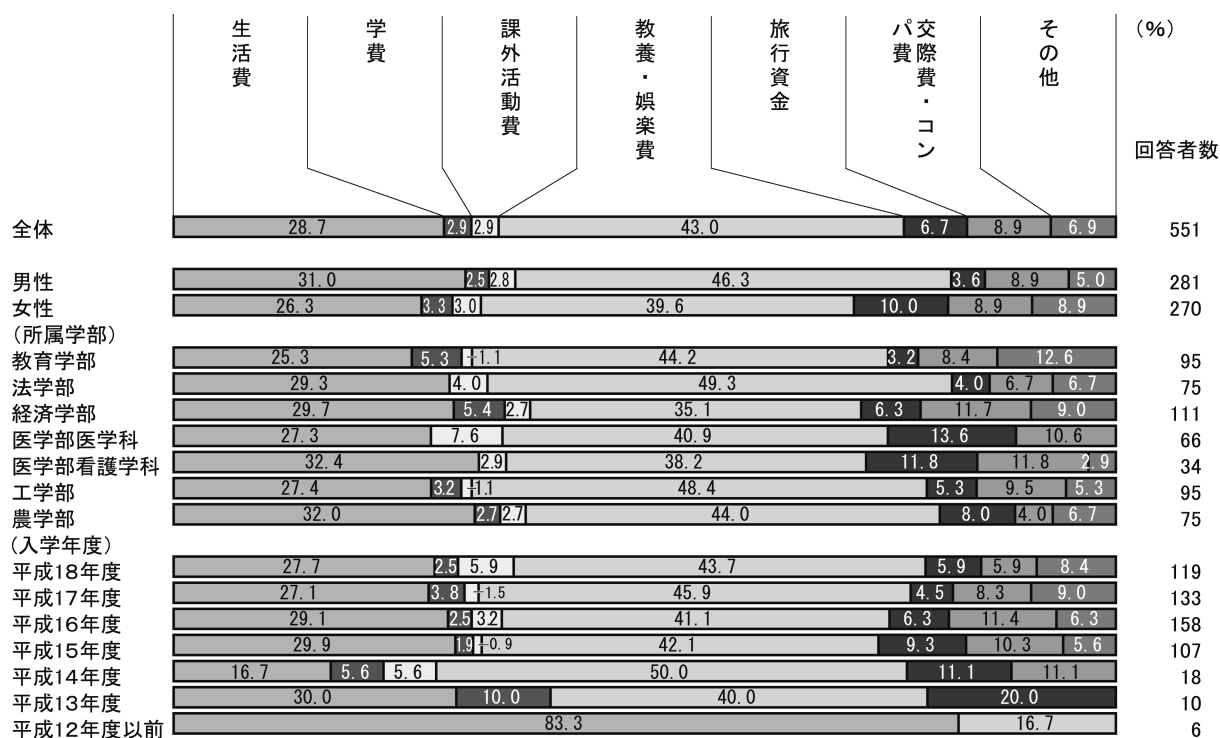
### (3) アルバイト収入の使途

「教養・娯楽費」と「生活費」が、大きな割合を占めています。

「教養・娯楽費」が1位で43%、「生活費」が第2位で28.7%です。この傾向は、近年ほとんど変化がないようです。男女別に見ても、ほとんど差はありませんが、女性の方が、やや「生活費」に充てる学生の割合が低く（男性31%、女性26.3%）、「旅行資金」に当てる割合が多いようです（男性3.6%、女性10%）。入学年度別の差も、ほとんどないようです。

また、アルバイト収入を学費に充てている学生は、教育学部と経済学部とに若干の学生がいるだけで、ほとんど見ることはできません。この傾向も、近年あまり変化がないようです。

〈図95〉 問71 アルバイト収入の主な使途は何ですか。次のうちから一つ選んで教えてください。



(4) アルバイトに費やす時間（授業期間中）

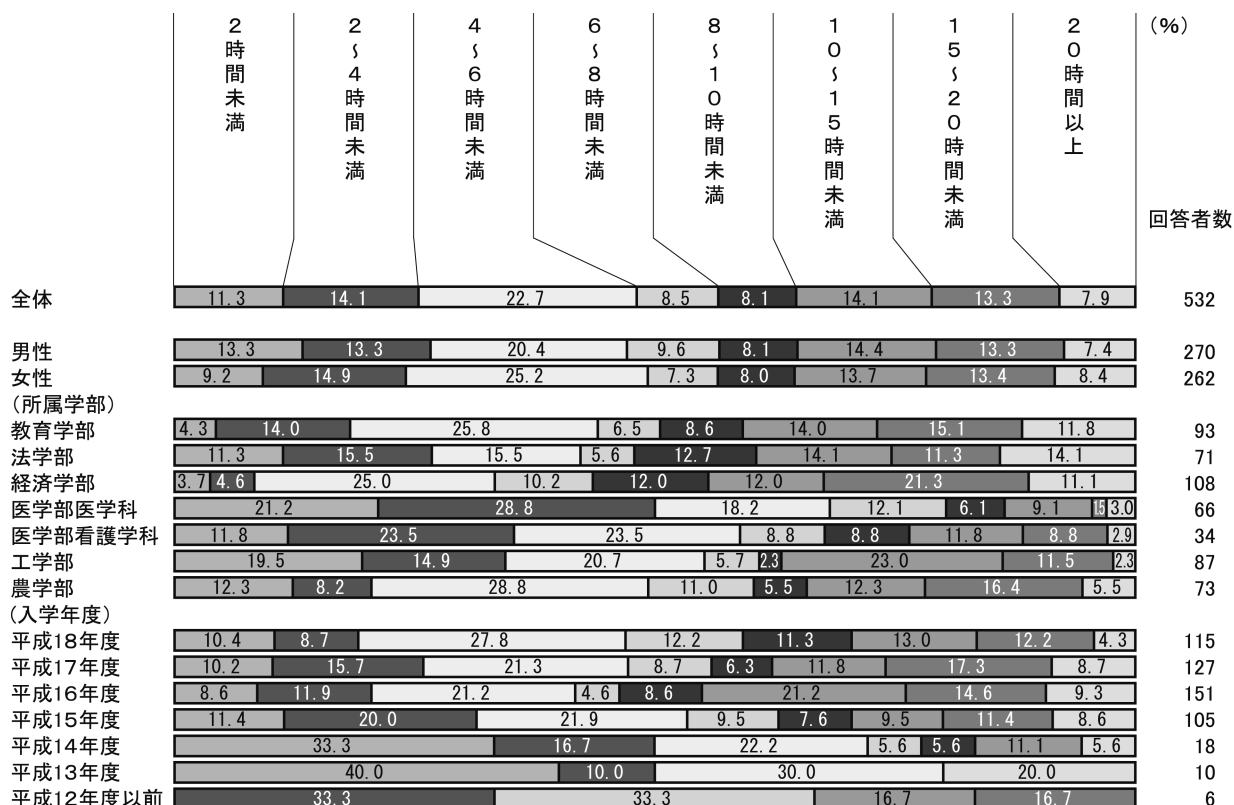
週に「4～6時間」のアルバイトをする学生が最も多い一方で、10時間以上の学生の割合が増加しています。

授業期間中にアルバイトを経験している学生を対象に見ると、週に「4～6時間」のアルバイトをする学生が22.7%と、最も多くなっています。その次に多いのは、「2～4時間」の学生で14.1%ですが、「10～15時間」働く学生も14.1%と、第2位で並んでいます。前回調査では、週に10時間以上アルバイトをする学生の割合が30.1%であったのに対し、今回調査では、35.3%に達しています。授業期間中でありながら長時間アルバイトを行う学生の割合が、増加しているようです。

学部別に見ると、医学部学生は、週のアルバイト時間が4時間未満の学生の割合が高くなっています（医学部医学科：50%，医学部看護学科：35.3%）。逆に、経済学部は、アルバイト時間が4時間未満の学生の割合が低くなっています（8.3%）。

〈図 96〉 問 72 アルバイトに費やす時間はどれぐらいですか。〔通勤時間を含め、1週間当たりの平均〕

①授業期間中



(5) アルバイトに費やす時間（長期休暇中）

長期休暇中は、「週20時間以上」アルバイトしている学生が最も多くなっています。

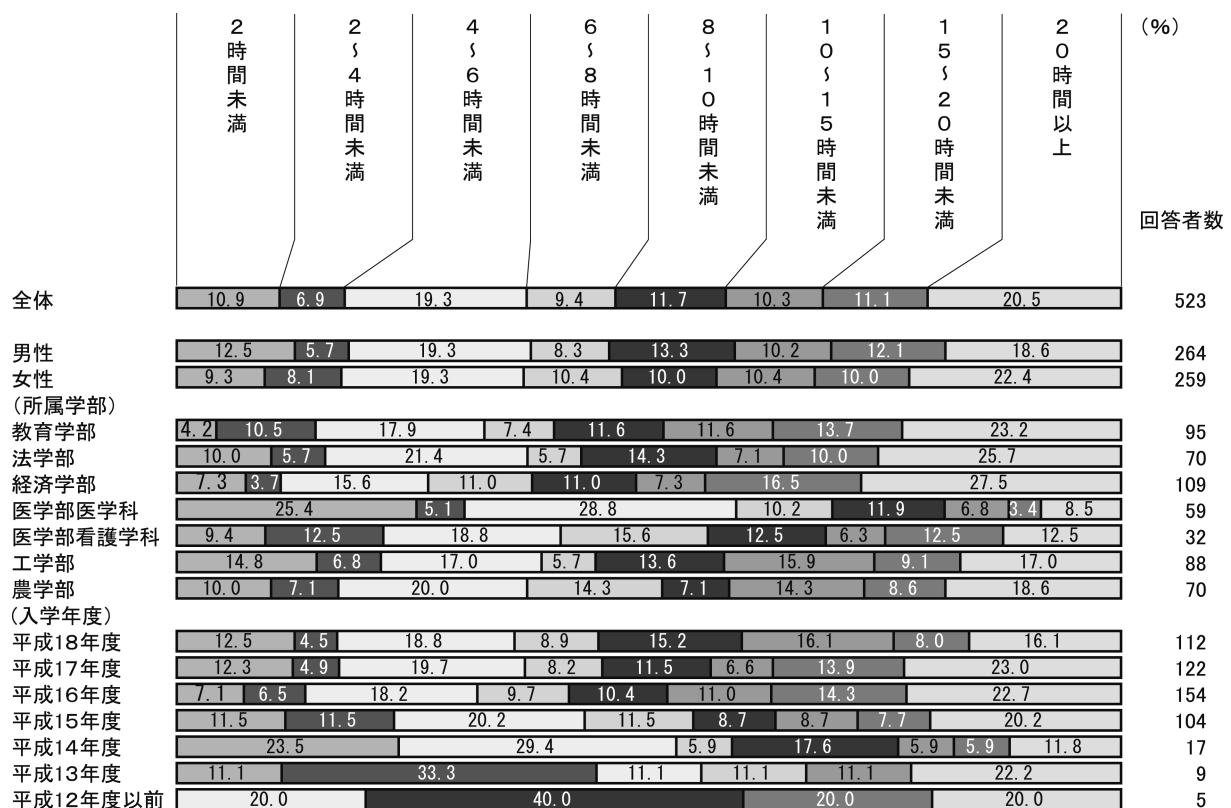
長期休暇中にアルバイトをしている学生を対象にすると、週に「20時間以上」のアルバイトをしている学生が20.5%と、最も多くなっています。それに続くのが、「4～6時間」の学生で19.3%です。授業期間中のアルバイトの結果と合わせて考えると、長期期間中には別にアルバイトを探す学生と、授業期間中と同じペースでアルバイトを続ける学生がいることが伺えます。

学部別に見ると、教育学部、法学部、経済学部の文系学部では、長時間アルバイトをする学生の割合が高くなっています（それぞれ23.2%、25.7%、27.5%）。それに対し、医学部、工学部、農学部の理系学部は、その割合が比較的低くなっています（医学部医学科：8.5%、医学部看護学科：12.5%、工学部17%、農学部18.6%）。

また、入学年度別に見ると、4年次生は、短時間のアルバイトを行う学生の割合が高くなっています。4年次生は、長期休暇中の時間の使い方が、他の学年と異なっていることが推察されます。

〈図97〉 問72 アルバイトに費やす時間はどれぐらいですか。〔通勤時間を含め、1週間当たりの平均〕

②長期休暇中



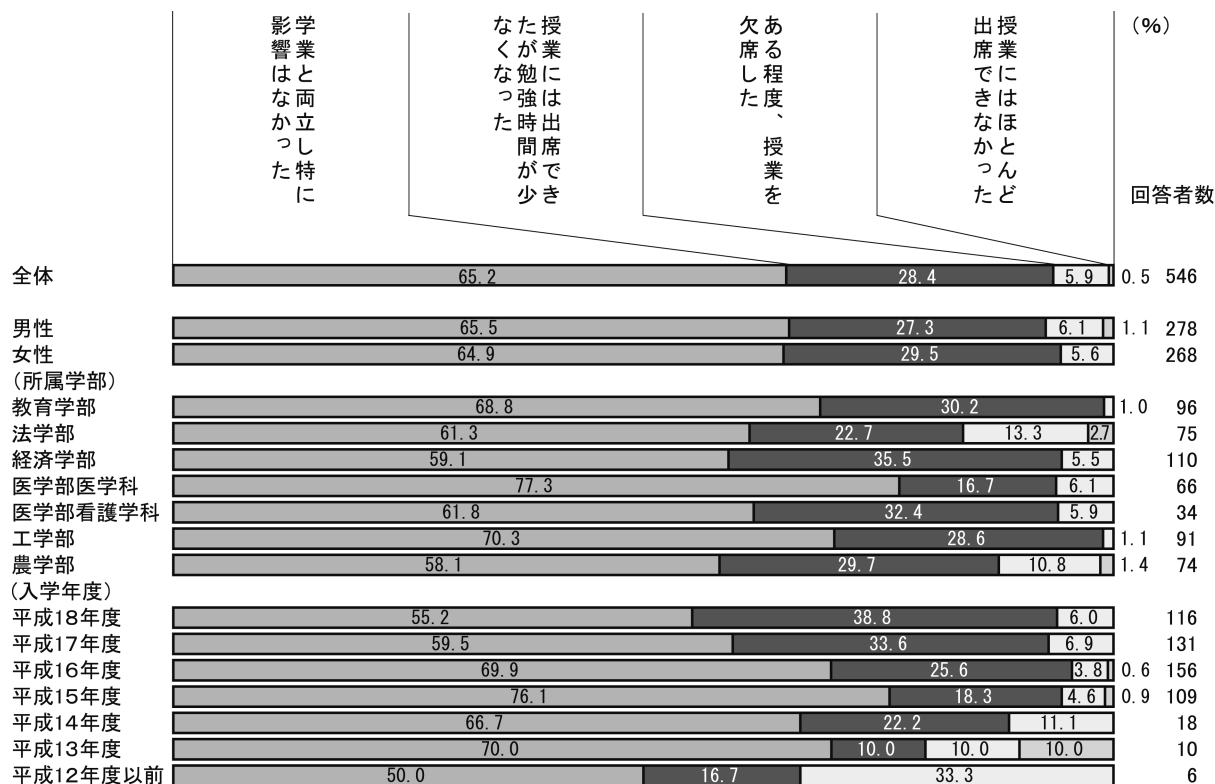
(6) アルバイトと学業の関係

ほとんどの学生が、アルバイトと学業を両立しています。

アルバイト経験のある学生を対象にすると、アルバイトを、「学業と両立し特に影響はなかった」と答えた学生の割合が65.2%と最も高く、両者をうまく両立させている学生が大半であることが伺えます。前回調査では、うまく両立している学生の割合が、女性の方が高いという結果がありましたが、今回の調査では、男女にほとんど差はありません。

学部別に見ると、法学部と農学部で、アルバイトのために、「ある程度授業を欠席した」学生の割合がやや高くなっています（法学部13.3%、農学部10.8%）。また、入学年度別に見ると、学年が上がるにつれて、アルバイトと学業をうまく両立させている学生の割合が、高くなっています。

〈図98〉 問73 アルバイトと学業の関係はどうでしたか。



(7) アルバイトを選ぶ基準

「給料がよいこと」が最も重要な基準ですが、「仕事の内容」や「学ぶ機会となるかどうか」も考慮されています。

アルバイトを選ぶ基準としては、「給料がよいこと」の割合が最も高く、アルバイト経験者のうちの26%の回答が集まっています。次いで、「おもしろい仕事や好きな仕事であること」と「楽であること」が16.5%で並び、「社会の現実や人間関係を学ぶ機会が多いこと」が僅差で続きます(15.4%)。給料が大きな基準であることは変化ありませんが、それ以外の基準も一定の割合を占めており、多様な基準が存在することが分かります。特に、「社会の現実や人間関係を学ぶ機会が多いこと」の基準は、前回と比べて3ポイントほどアップしており、学ぶことを意図してアルバイトを選択している学生も、次第に増加していることが伺えます。

学部別に見ると、医学部医学科において、「給料がよいこと」を選択した学生の割合が高いことが目に付きます(50%)。また、入学年度別では、入学初年度は、「新しい知識や技術を学ぶ機会が多い」、「社会の現実や人間関係を学ぶ機会が多い」といった、新たな経験や知識を得ることを目的とする学生が多いようです。

〈図 99〉 問 74 あなたがアルバイトをしたとき、何を基準にして仕事を選びましたか。

次のうちから一つ選んで答えてください。



## 5. ボランティア活動

### (1) ボランティア活動の経験

ボランティア活動を未経験の者が42.5%と、最も多くなっています。  
また、女性が、積極的に活動を行っています。

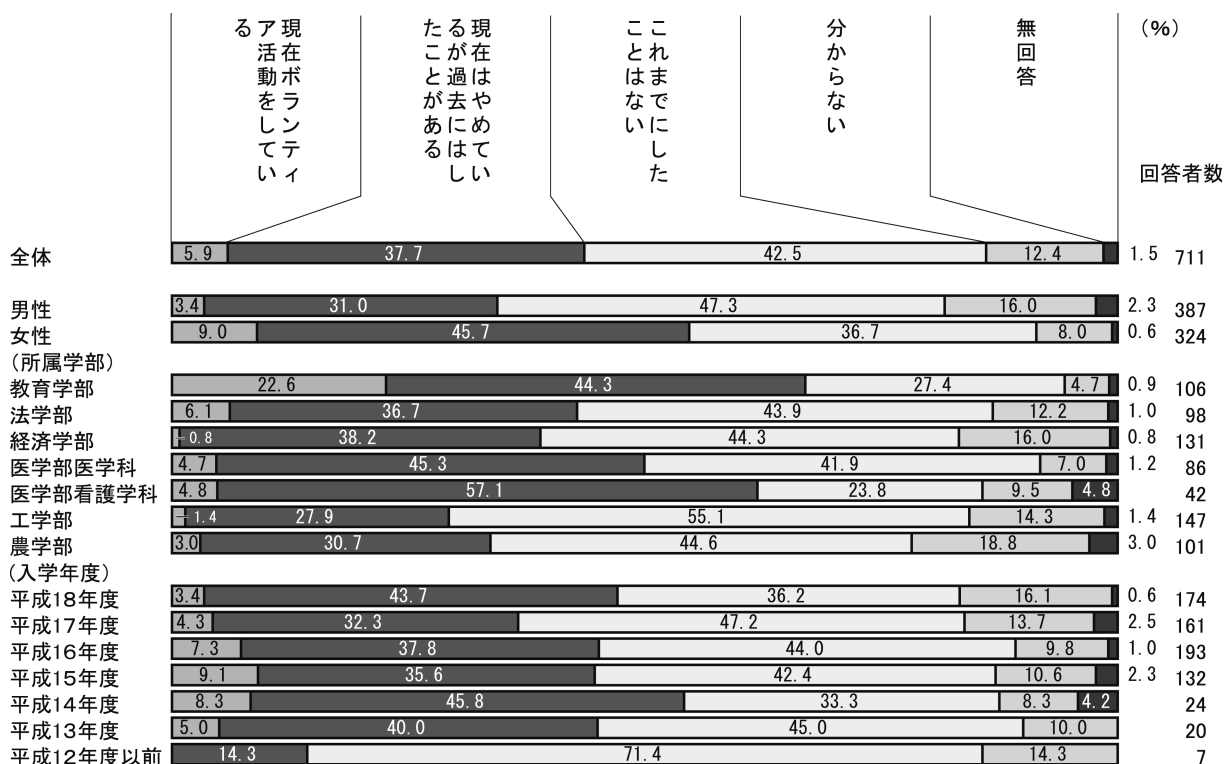
ボランティア活動の経験については、「これまでにしたことはない」学生が42.5%と、最も多くなっています。現在、活動を行っている者は5.9%と少なく、過去に経験したことのある学生が37.7%です。

男女別に見ると、女性が、積極的にボランティア活動に取り組んでいることが伺えます。現在、活動している学生が9%（男性は3.4%）、経験したことのある学生の割合も高く（男性：31%、女性：45.7%）、半数以上の女性の学生が、これまでにボランティア活動を体験していることとなります。

また、学部別に見ると、教育学部において、現在活動中の学生の割合が、他学部比べて際立って高くなっています（22.6%）。また、過去のボランティア経験まで含めると、教育学部と医学部の割合が高くなっています。

入学年度別の結果では、学年が進行するにつれて、ボランティア経験の割合が高まるような傾向は見られず、大学生活の中で次第にボランティア活動を体験していくという学生は、それほど多くないことが推測されます。この傾向は、前回調査と変化がありません。

〈図100〉 問75 ボランティア活動をしたことがありますか。





(2) ボランティア活動の内容

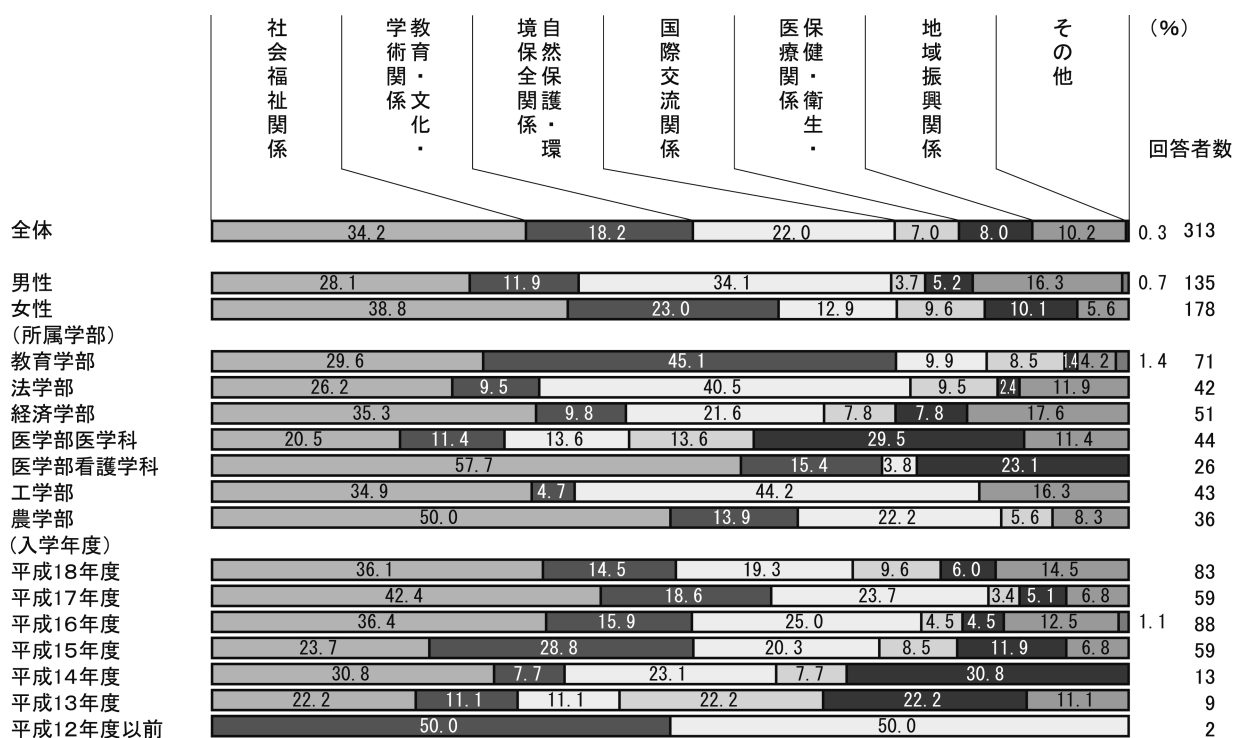
「社会福祉関係」の割合が34.2%と、最も高くなっていますが、所属する学部ごとで、主要な活動内容が異なるようです。

ボランティア活動の内容としては、「社会福祉関係」の割合が34.2%と最も高く、「自然保護・環境保全関係」(22.0%)、「教育・文化・学術関係」(18.2%)が続きます。

取り組むボランティア活動の内容については、学部別の差が大きいようです。それぞれの学部で、多くの学生が取り組む内容が異なっています。教育学部は、「教育・文化・学術関係」(45.1%)、法学部と工学部は、「自然保護・環境保全関係」(それぞれ40.5%、44.2%)、経済学部、医学部看護学科、農学部は、「社会福祉関係」(35.3%、57.7%、50%)、医学部医学科は、「保健・衛生・医療関係」(29.5%)です。学生が、ある程度、興味や能力に応じて、ボランティア活動の内容を選択している様子が分かります。

〈図101〉 問76 問-75で「1」又は「2」と回答した人におたずねします。

(1) そのボランティア活動の内容を、次のうちから一つ選んで教えてください。



(3) ボランティア活動の年間活動時間

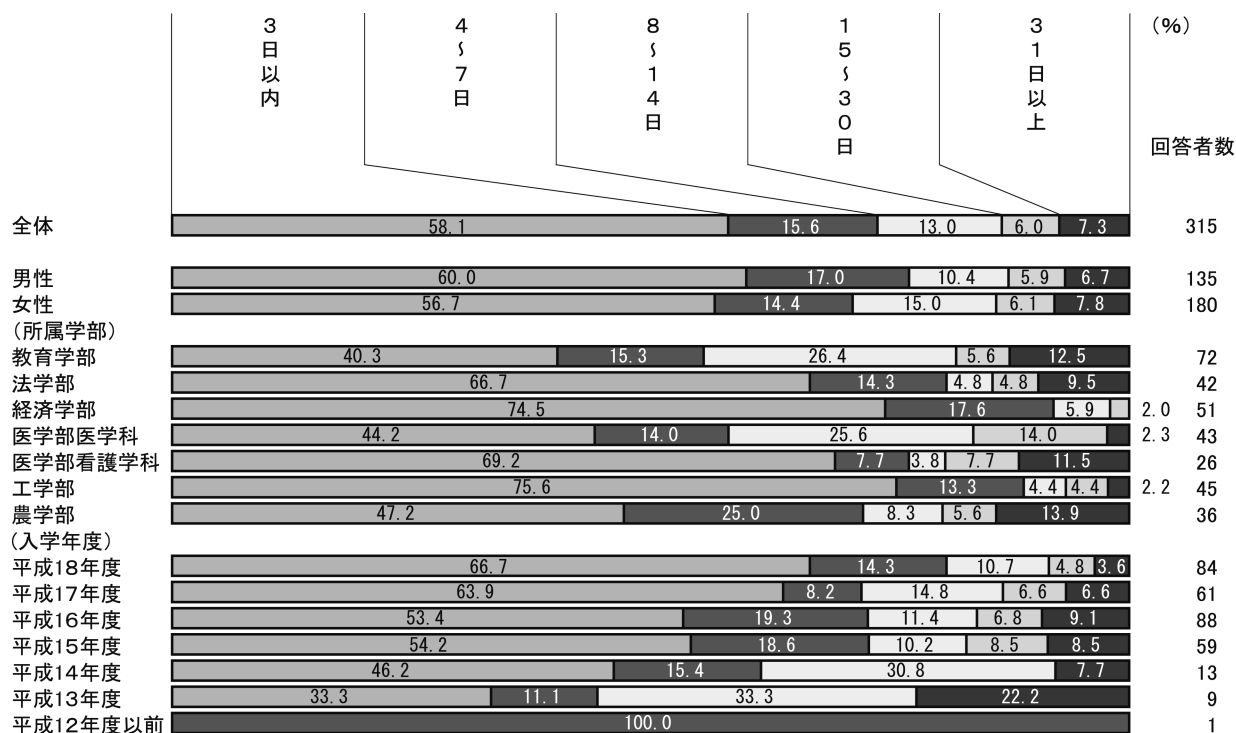
「3日以内」が最も多く、活動日数が多くなるにつれて、割合が減少します。

ボランティア経験のある者を対象とすると、年間のボランティア日数は、「3日以内」の学生が最も多く58.1%です。次いで、「4～7日」が15.6%、「8～14日」が13%、「15～30日」が6%であり、30日以上も7.3%います。

学部別では、年間8日以上活動を行っている学生の割合が、教育学部と医学部医学科で高くなっています。また、入学年度別に見ると、学年が進行するに従って、「3日以内」の学生の割合が減少し、より長い時間、ボランティア活動に取り組む学生が増えているようです。

〈図102〉 問76 問-75で「1」又は「2」と回答した人におたずねします。

(2) そのボランティア活動の年間の活動日数を次のうちから一つ選んで教えてください。



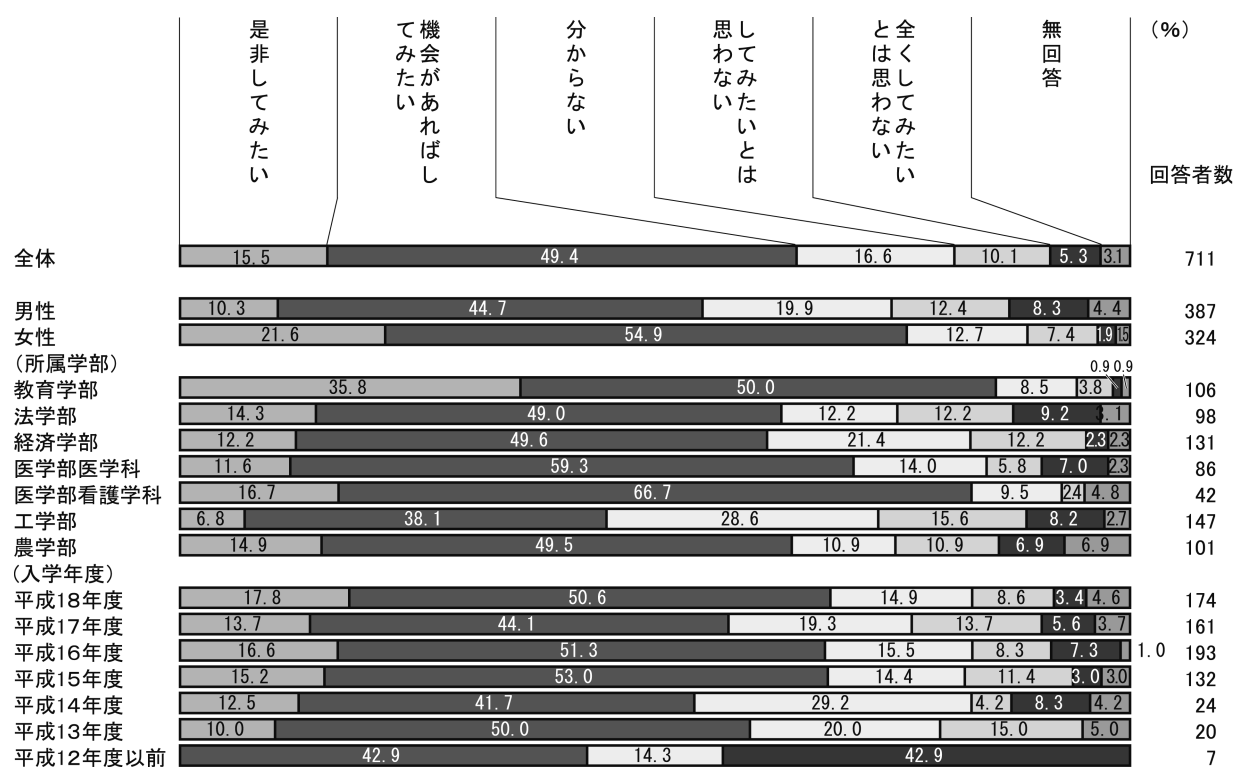
(4) ボランティア活動への関心

ボランティアに関心を持っている学生が64.9%です。

全体では、「是非してみたい」学生が15.5%、「機会があればしてみたい」学生が49.4%であり、合計すると、64.9%の学生が、ボランティアに関心を持っています。特に、女性では、この割合が76.5%となり、男性と比べて高い割合を示しています。

学部別に見ると、これまでのボランティア経験の傾向と同様に、教育学部、医学部の学生の高い関心が見て取れます。また、入学年度別では、それほど大きな違いがありません。これも、これまでのボランティア経験と同様の傾向です。

〈図103〉 問77 ボランティア活動を今後したいと思いませんか。



(5) 今後やってみたいボランティア活動

「自然保護・環境保全」「教育・文化・学術関係」「社会福祉関係」への関心が高くなっていますが、全体として、様々な分野に希望が分散しています。

今後やってみたいボランティア活動としては、「自然保護・環境保全」が22.4%、「教育・文化・学術関係」が20.3%、「社会福祉関係」が18.7%と高い割合になっていますが、他の項目にも希望者が分散しています。

これまでのボランティア経験と同様に、今後の関心についても、学部別で傾向が異なります。教育学部では、「教育・文化・学術関係」(56%)、医学部では、「保健・衛生・医療関係」(医学科:45.9%、看護学科:60%)、工学部と農学部は、「自然保護・環境保全関係」(それぞれ41.3%、49.2%)が、他に比べて高い割合を占めています。法学部、経済学部では、希望が分散していますが、経済学部で、「地域振興関係」の希望割合が、他と比べて高くなっているようです(23.2%)。

〈図104〉 問78 問-77で「1」又は「2」と回答した人におたずねします。

今後やってみたいと思うボランティア活動の内容を、次のうちから一つ選んで答えてください。

